

笠岡市立
郷土館
企画展示

関藤藤陰

—吉備の国第一流の人—



会期

令和8年 10/10【土】

↓
12/27【日】

|臨時休館日|

10/6【火】-10/9【金】

1/5【火】-1/8【金】

場所

笠岡市立郷土館

[岡山県笠岡市笠岡 3628-10]

展示
解説

11/28【土】

午前10時～

写真出典：『関藤藤陰 伝記と遺稿』（児島書店）

せきとうとういん

関藤藤陰

1807年（文化4）～1876年（明治9）

備中国吉浜村（現在の笠岡市吉浜）に生まれる。頼山陽に師事し、『日本政記』の完成に力を尽くす。福山藩主で幕末の老中 阿部正弘に仕えて、黒船の視察、蝦夷地の探検を行う。

戊辰戦争の際には、福山城を包囲した長州軍と交渉し、福山城下を戦禍から救う。

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日・祝日の翌日

入館料 無料

問合せ先 笠岡市教育委員会 生涯学習課（展示内容）

● 電話 0865-69-2155

笠岡市立郷土館（施設について）

● 電話 0865-63-7600

令和8年(2026)は、^{せきとうとういん}関藤藤陰没後150年という節目の年にあたります。

関藤藤陰は、文化4年(1807)に小田郡吉浜村(現在の笠岡市吉浜)で生まれました。長じ^{らいさんよう}て頼山陽の塾で重きをなし、『日本政記』の完成に関わりました。また、福山藩に登用されて、老中・阿部正弘^{あべまさひろ}の腹心として活躍。戊辰戦争の際には福山城に攻め寄せた長州軍と命がけで交渉して福山を戦禍から救い、明治9年(1876)に亡くなりました。

幼い頃に父母や育ての親と死に別れて、後月郡の医師・石川氏の養子となり、その後福山や江戸で活躍したこともあって、地元笠岡市に関藤藤陰ゆかりの史料はほとんど残っておりません。

そこで今回の企画展では、関藤藤陰の功績を皆様にご紹介することを第一の目的といたしました。本展示により、関藤藤陰という優れた先人がいたことを、皆様にお伝えすることができれば幸いです。

● 関藤藤陰年表

年代	年齢	関藤藤陰	年代	全国のできごと
文化四年	1	吉浜村(現在の笠岡市吉浜)で生まれる	文化六年	間宮林蔵が、樺太が島であること(間宮海峡)を確認する
文政十一年	22	頼山陽の山陽塾に入門する	文政八年	幕府が異国船打払令をだす
天保三年	26	病死した頼山陽にかわって『日本政記』を完成させる	天保八年	大塩平八郎の乱がおきる
天保十三年	36	福山で開塾する	天保十二年	老中・水野忠邦が天保の改革に着手する
天保十四年	37	福山藩に儒官として採用される	天保十四年	阿部正弘が幕府老中に就任する
弘化三年	40	福山藩主・阿部正弘の侍講兼御側御用となる		
嘉永六年	47	ペリー来航にあたり、阿部正弘の命で浦賀視察におもむく	嘉永六年	アメリカ東インド艦隊司令官・ペリーが浦賀に来航する
安政三年	50	蝦夷地(北海道・千島列島)の探検におもむく		
安政四年	51	蝦夷地(北海道・樺太)の探検におもむく	安政五年	安政の大獄が始まる
			慶応三年	将軍・徳川慶喜が朝廷に大政奉還する
明治元年	62	福山城を包囲した長州軍と和睦を結び、福山城下を戦禍から救う	明治元年	戊辰戦争が始まる
明治九年	70	病のため、東京で逝去する	明治一〇年	西郷隆盛らが土族の反乱(西南戦争)をおこす